

「雪まつり」
水脈ほそる
山川の洲の斑ら雪。
かそかにうごく
ものこそはあれ

(雪まつり)
釈 遥空

国学院大学 令和4年12月20日(火) 定期号(毎月20日発行) 1部20円
【発行】国学院大学 【編集】総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目 【電話】03(5466)0130 【FAX】03(5466)0528

祭儀 ■大祓 12月24日(土) 午後4時 神殿前庭 ■歳旦祭 1月1日(日・祝) 午前11時 神殿

オオカミの縁に導かれ 移住先で神社再建

絶滅したとされるニホンオオカミに導かれるように、山梨県丹波山村と出会い、文化財保護やまちおこしに取り組み寺崎美紅さん(平28・124期日文)。国学院大学院友会など人との繋がりによって、オオカミ信仰で知られる同村の七ツ石神社の再建という大事業を成し遂げた。オオカミの伝承をモチーフにしたブランド「Wolfship Design(ウルフシップ・デザイン)」を立ち上げ、絵本『蒼い夜の狼たち』を出版するなど、オオカミ信仰と七ツ石神社の再建のドラマを語り継いでいる。

寺崎さんは、中学生の時に新渡戸稲造の著作『武士道』を読み、日本人の心のよりどころは何かと調べているうちに、山岳信仰や伝承、民俗・文化にたどり着いたという。高校では、本屋で偶然手にした柳田國男の『遠野物語』にも影響を受けた。漢文の先生に「国学院大学なら、遠野物語に書いてあるようなことを学べる」と勧められ、神話伝承や妖怪を学べることに嬉しく、進路を決めた。大学では伝承文学を専攻した。

寺崎さんが、丹波山村での仕事に就いたのは、埼玉県秩父市の三峯神社での不思議な体験がきっかけだったという。三峯神社で開催されたニホンオオカミのフォーラムに、友人と出かけた時のことだ。

午前4時ごろ、奥ノ院へ続く参道の先から、真っ白な大きな犬が寺崎さんを見つめていた。しばらく見つめ合った後、白犬は突然、とても高く跳躍し、参道わきの茂みに消えた。駆け寄ってみたが、犬が分け入った跡もなく、周囲は静寂に包まれた。そのフォーラムで登山仲間と知り合い、仕事について相談したところ丹波山村の人を紹介してもらった。早速、村を訪れて役場の人と面談すると「村には文化財に詳しい人がいないし、山登りができる人も少ない。卒業したら、ぜひ、きてください」と言ってもらった。オオカミに導かれた先で、寺崎さんは文化継承に取り組んでいる。

6・7面に関連記事



陸上競技部総合優勝に挑む

箱根駅伝壮行会・檉授与

第99回東京箱根間往復大学駅伝競走が、令和5年1月2、3日に開催される。今年10月の出雲駅伝、11月の全日本大学駅伝で準優勝した国学院大学陸上競技部は、前回大会で8位と4年連続でシード権を獲得している。7年連続16回目の出場となる今大会で、同部は総合優勝を目標に掲げる。

12月4日に熊本県で開催された甲佐10マイル(16・09キロ)では、中西大翔主将(健体4)が46分9秒、山本歩夢選手(同2)が46分16秒と学生歴代2位、3位の記録でゴールし、好調さを見せた。他の選手たちも各試合で好走するなど、箱根駅伝に向けチームは勢いに乗る。

12月16日には渋谷キャンパスで壮行会が行われ、針本正行学長から中西主将にスクールカラーの古代紫で染め上げられた檉が手渡された。前田康弘監督が「このチームには強さがあり、努力も重ねてきた。全身



全霊をかけ、全員で堂々と挑みたい」、中西主将(経4)が「前回の悔しさを晴らすため、1年間やってきた。総合優勝目指し、チーム一丸で戦いたい」と力強く意気込みを語った。

K・DNA II面に関連記事

みはるかすもの

まもなく年の瀬。みなさんにとってどのような一年だっただろうか。さまざまな出来事が世界で、日本でも起こった▼ロシアによるウクライナ侵攻は世界を驚愕させ、侵攻に起因するエネルギー事情や食糧事情の悪化は、世界的な物価高に繋がった。最近の円安も加わり、生活を圧迫している。ほかにも東京五輪を巡る疑惑や知床観光船の事故など、人の「欲」が引き起こした事件が真先に浮かぶ。良くない出来事のほうが印象に残ることなのだろうか▼明るいニュースに目を向ければ、将棋の藤井聡太棋士の五冠達成や冬季五輪での日本選手の活躍など

ど、若い世代の躍進が光った。本学の学生も、スポーツはじめ各所で好成績を収めた▼卒業論文の提出期限が近づくと、図書館では文献と向き合う学生の姿を多く目にする。図書館以外でも、一人で、あるいは友人らと意見を交わし、勉学に励む学生たちの姿が印象に残る▼大会やコンクールで賞を獲得ことはもちろん素晴らしいことだ。努力の賜物だからこそ、多くの人が称賛する。同時に、何気ない日々の中で、勉学に励む学生たちの姿もまた大学の財産だ▼コロナ禍からはや3年。一時はキャンパスから学生の姿が消え、異様な静寂に包まれた。それ故に「学生の姿あってこそその大学」と思わずにはいられない。この一年が、学生のみなさんにとって良い年であったことを願っている。



大沼氏による講演に参加者らは耳を傾けた

「国学者の近代」をテーマに開催

研究開発推進機構 公開学術講演会

国学院大学研究開発推進機構は11月19日、公開学術講演会「国学者の近代—学問の蓄積と継承—」を渋谷キャンパスで開催し、約80人が参加した。

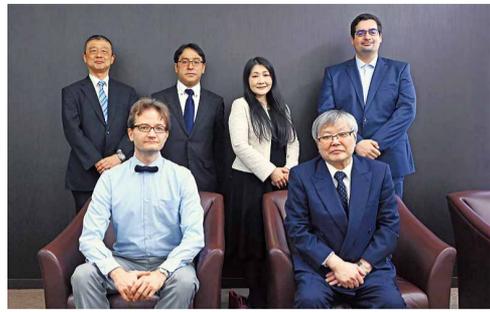
当日は、国立国会図書館司書で、文学博士の大沼宜規氏が登壇した。大沼氏は日本の学問基盤の構築に大きな影響を及ぼした国学者証派の一人で万葉集の研究者として知られる国学者・国文学者の木村正辞（1827—1913年）の研究手法や取り組みを解説するとともに、木村の活動が国学の発展にどのように寄与し、近代日本の国学が形づくられたかをひも解いた。

木村は万葉学者、国学者、文献学者のほかにも、数多くの書物を収集した蔵書家としての顔も持つ。また、中国音韻学にも造詣が深く、万葉集の解釈にも、これを駆使したとされる。大沼氏は木村の横顔を「合理的な考え方をする人物だった」と評したうえで、万葉集などの古典を解釈する独自の手法や考え方を詳しく説明。学問的な特徴では、漢字への深い知識を

生かすとともに、古代日本語の用例研究に基づき緻密に検討し、整理された研究手法が取られたと述べた。また、複数の書物を見比べ、誤りを正す校合の作業では文意を推測して私意を加えることを否定し、作者の本意を曲げてはならないとの信念を持ち続けた木村の姿勢についても言及した。

大沼氏は江戸時代後期から明治時代中期にかけて、古典の解釈を通し歴史的事実の解明に力を注いだ国学者の活動が、日本の学問や文化的な発展にどのように貢献したかについて「明治時代に入り、活字出版が盛んになる。国学者が江戸時代後期から書物の収集や校訂作業を地道に積み重ね、出版への土台を築いていたからこそ実現できた」と指摘。さらに、「日本の近代化に国学者が果たした役割は大きく、学問の基盤づくりに貢献した」と力を込めた。こうした国学者らの活動の場になった一つが皇典講究所であり、国学院大学であると述べ、本学の国学発展への寄与を評価した。講演の最後に大沼氏は、「文献の校合や校訂などを通じ元の正しい姿を探り出す国学者の取り組みはもっと評価されてもよいのではないか」との考えを示した。

ルーヴェンカトリック大学 日本学科長が表敬訪問



今年度、新たに協定を締結したルーヴェンカトリック大学（ベルギー）の文学部日本学科長であるヤン・シュミット氏＝写真前列左＝が11月29日、渋谷キャンパスに来校し針本正行学長＝同右＝を表敬訪問した。同大と本学とは以前から研究者の相互派遣などの交流をしており、次年度からは交換留学生受入・協定留学派遣が開始される。

シュミット学科長は「貴学との研究交流は貴重な機会だ。特別講義などで、学生も刺激を受けている」、針本学長は「貴学の日本研究の知見も得て、国際日本学の構築を目指したい」と述べた。当日はシュミット学科長による留学説明会も開催され、履修授業や留学生活の説明に学生は耳を傾けていた。

法学会講演会 民主主義と労働問題を語る



今年度の第2回、第3回法学会講演会が渋谷キャンパスで開催された。

第2回は11月18日に開催され、宇野重規東京大学教授が「そもそも、民主主義ってなんですか?」と題し講演。学生ら約30人が参加した。宇野教授は民主主義について、「選挙による代表者の選出と自分たちの手による問題解決の相互補完的なしくみ」とし、その意義を「公開による透明性、参加による社会への当事者意識、決定への責任」と解説。民主主義の意味を改めて問いかけた＝写真。

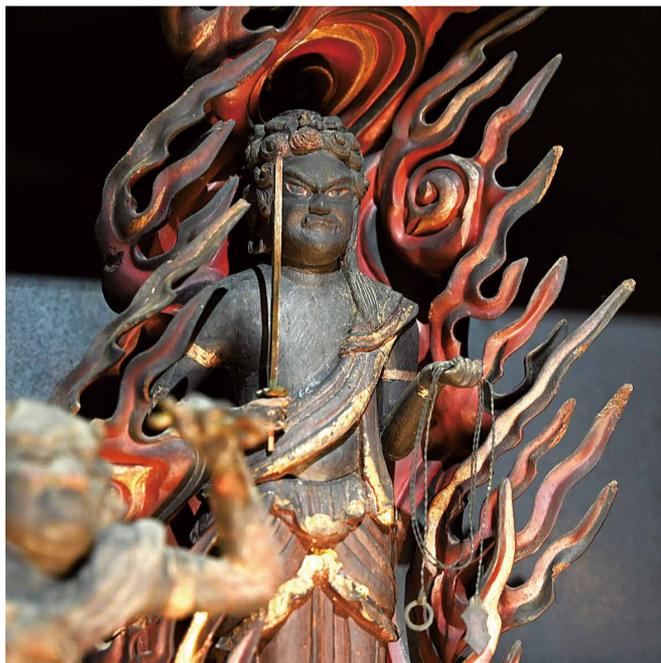
第3回は11月24日に開催され、蟹江鬼太郎弁護士（旬報法律事務所）が「過労死・過労自殺事件の実務と理論」と題し講演を行い、学生ら約40人が参加した。蟹江弁護士は担当した裁判の資料などを用いて労働問題の現状を論じた。講演後は学生から労災問題への対策についての質問などが寄せられ、蟹江弁護士が今までの経験を基に回答した。

渋谷区4大学連携講演会 子育てと食育を語る



渋谷区に所在する国学院大学、青山学院大学、実践女子大学、聖心女子大学の4大学が11月26日、渋谷キャンパスで「子育てと食育」をテーマに連携講演会を開催し、約70人が参加した。当日は各大学の教員が登壇し、講演とパネルディスカッションで家庭や幼児教育施設での食育について語った。

国学院大学博物館 伊豆修験の実態に迫る特別展



初公開された円光院の本尊「不動三尊像」

国学院大学博物館は、特別展「走湯山と伊豆修験」を1月22日まで開催している。この特別展は、日本独自の宗教である修験道について、その成り立ちや開祖である役行者（神変大菩薩）に触れつつ、多くの修験者が集った伊豆走湯山・伊豆山神社の歴史や信仰、伊豆修験を紹介している。

令和4年は、明治5（1872）年に修験道廃止令が出されてから150年の節目にあたる。伊豆走湯山は「走湯

権現」と呼ばれる東国有名な霊験所で、信仰の聖地として山伏たちが修行に集っていたが、明治初期の神仏分離令や廃仏毀釈といった政策に大きな影響を受けて伝承が失われていた。今回の展示では、歴史学・考古学的な手法から伊豆修験の伝承を復元し、実態を明らかにすることを試みている。法螺貝や結袈裟＝写真



江戸時代に用いられた法螺貝と結袈裟

下、祈祷に用いられた祈祷札の板木などに加え、伊豆半島を一周する辺路の概略や行程を記した『伊豆峯次第』とい

った史料も展示。中でも今回の目玉は、12月11日までの期間限定で展示された国宝『走湯権現当峯辺路本縁起集』（称名寺蔵・神奈川県立金沢文庫保管）。他にも初公開の走湯山円光院の本尊である「不動三尊像」＝同上＝も展示され、不動明王の背後にある火焰光背の見事な造形に、見学に訪れた学生たちは食い入るように眺めていた。 本学博物館YouTubeでは、オンラインミュージアムで本特別展の解説動画を公開中。自身も修験道の修行に臨んでいる深澤太郎・研究開発推進機構准教授が全5章に分けて展示解説を務めている。動画の視聴は二次元コードから。



若手研究者・大学院生らが研究交流 中国・南開大学とフォーラム開催



両校の会場を繋ぎ、研究者・大学院生らが研究成果を披露

「国学院大学・南開大学院生フォーラム 第8回東アジア文化研究国際シンポジウム」が11月19日、渋谷キャンパスと南開大学（中国・天津）をオンラインで繋ぎ開催された。

はじめに閩国棟・南開大学外国語学院院长（教授）が「相互に研究を披露する素晴らしい機会だ」、佐藤長門・本学大学院委員長（教授）が「フォーラムを通じ、学術交流と研究理解が深まることを願う」と期待を寄せた。

基調講演では本学から小川直之文学部教授が「日本の神楽にみる『式三番』演目の構成―宮崎県を中心に―」と題し講演。日本の芸能は「神楽から申楽や能楽、歌舞伎などが生まれ、相互に影響を与え現在に至っている」と解説した。宮崎県の神楽について、申楽の演目である「式三番」の特徴がみられ、「申楽が神楽に入り込んでいると言える」と自身の研究をもとに語った。続いて、南開大学から蔣雲斗副教授が「『狗張子』卷之四『不孝の子、狗と詠』の典故に関する一考

察」と題し講演した。仮名草子の代表作家である浅井了意（生年不明―1691）について、「正願寺の住職時代に仮名草子の発表が集中する。研究上で非常に重要な点だ」と強調。また、中国古典を題材とした『狗張子』の典故や翻訳の特徴の解明には、「他の作品と比較・検討することが必要」と語った。

若手研究者学術フォーラムでは、荒木優也文学部助教と母丹南開大学講師が登壇。荒木助教は「命の系譜―西行成について―」と題し発表し、「命なりけり」の表現は、多くの歌で「命は無常のはかないもの」と捉えるが、『源氏物語』の桐壺では、「生命力」を表すと解説。西行の歌にもこの特徴がみられ、『源氏物語』の影響を受けていると説いた。母丹講師は、「満州」で翻訳された宮沢賢治―訳者『季春明』を中心に―と題し発表。満洲協和会中央本部文化部の職員でありながら、中国国民党の地下党員であった王恒仁が『風の又三郎』を訳したと推定し、日本側の信頼を得るために当時の人気作品を翻訳したとも考えられると自身の研究をもとに述べた。

その後は、「院生学術フォーラム」が6分科会で開催され、両校の大学院生30人がそれぞれの研究成果を発表。活発な交流がなされた。

学問ノ道 第48回

柴田常恵 ―人と学問―



柴田常恵

柴田常恵（1877―1954）は、明治時代後半から昭和時代前半にかけて活躍した考古学者である。明治10（1877）年、愛知県名古屋市の浄土真宗瑞忍寺の三男として生まれ、小学校の頃より歴史に興味を示し、明治30（1897）年、私立真宗東京中学高等科を卒業後、私立郁文館中学を経て、34（1901）年には、台湾総督府学校講師となった。台湾で坪井正五郎博士の講演を聞いて考古学に興味を覚え、35年、坪井の勧めで東京帝国大学人類学教室となり、その後、同大助手として勤務した。大正9（1920）年まで『人類学雑誌』の編輯に携わり、大正6（1917）年には、『日本石器時代人遺物発見地名表』の増補第4版を刊行し、同9（1920）年には『仏像綜覧』を出版した。

柴田は、大正8（1919）年に、史蹟、天然記念物の保護を目的とした「史蹟名勝天然紀年物保存法」が制定されたのを機に、帝大助手から内務省地理課に設けられた史蹟考古官として勤務し、主として諸国の国分寺址と古墳等の調査に従事した。大正13（1924）年、東京府南多摩郡南村高ヶ坂（東京都町田市高ヶ坂）においてわが国初の石器時代敷石住居跡（現高ヶ坂石器時代遺跡）が発見された際には、柴田が主体となつて後藤守一、森本六爾、稲村垣元らと共に史蹟指定に導いた。また、栃木、群馬、埼玉各県の史蹟調査顧問や埼玉、愛知、香川各県の県史編纂顧問となつて地方史研究にも大いに貢献している。昭和8（1933）年、内務省に設置されていた事務の文部省への移管に伴って同職を退職し、昭和4（1929）年から着任していた慶応義塾大学講師（1943年迄）として教鞭を執る一方、石田茂作、矢吹活禅、稲村垣元らと共に古寺址研究会を立ち上げるなど関東の古寺址を踏査し研究を重ねたのである。戦後は文化財専門審議会委員として活躍したが、昭和29（1954）年に長逝された。

柴田は、史蹟考古官として全国に及ぶ国分寺址及び古寺の調査を行った関係で300点をこえる多数の古瓦を蒐集していたが、晩年埼玉県秩父郡長瀬町に所在した長瀬吸古館（1963年長瀬総合博物館に改称）に寄贈し、平成25（2013）年の閉館と共に埼玉県に移された。国学院大学博物館には大場磐雄博士を介して移管された柴田の写真やファイル・ノートなどと共に、瓦拓本5837枚を収蔵しており、平成31（2019）年、さきたま史跡の博物館によって拓本と実物との照合がなされ、正確な出土地が特定された。現在、柴田常恵アーカイブスは、国学院大学デジタルミュージアムで写真、瓦拓本、野帳の3つのカテゴリで公開している。

二次元コード。
文学部教授 内川 隆志

令和5年度国内外派遣研究員決まる

国学院大学の令和5年度国内および国外派遣研究員の研究課題、研修先、派遣期間が次の通り決定した。

- 【国内派遣研究員】
- ◇文学部…小田勝教授「日本語の歴史的対照文法の研究」国学院大学1102研究室、国学院大学図書館、4月1日～令和6年3月31日▷藤澤紫教授「浮世絵と東西文化交流史」国学院大学1304研究室、国学院大学博物館、国学院大学図書館、日本浮世絵博物館・秋田県立美術館ほか、4月1日～9月30日・令和6年1月1日～3月31日▷多和田真理子准教授「明治期における小学校の設置運営と地域社会―長野県飯田下伊那地域の事例を中心に―」飯田市歴史研究所（長野県飯田市）、長野県立歴史館（長野県千曲市）、国学院大学1605研究室、国学院大学図書館、国立国会図書館、4月1日～令和6年3月31日

- ◇法学部…坂本一登教授「帝国議会の研究―桂園時代を中心に―」国学院大学、青山学院大学、東京大学、4月1日～令和6年3月31日▷福岡英明教授「憲法の人権規定の私人間効力の理路」国学院大学第8研究室、4月1日～令和6年3月31日
- ◇経済学部…小野正人教授「欧州高等教育機関におけるアントレプレナーシップとアプレンティスシップ」国学院大学図書館、東京大学経済学部図書館、日欧産業協力センター、4月1日～令和6年3月31日▷尾近裕幸教授「『山本勝市』の自由主義経済思想の独自性に関する研究」国学院大学1003研究室、国立国会図書館憲政資料室（山本勝市関係文書）、10月1日～令和6年9月30日
- ◇神道文化学部…武田秀章教授「神道・国学関係基礎資料の調査研究」国学院大学図書館、国立国会図書館、宮内庁書陵部、国立公文書館、東京大学史料編纂所、東京都公文書館、山口県文書館、秋田県公文書館、鳥取県立公文書館、奈良県立図書館、津和野

- 町郷土館ほか、4月1日～令和6年3月31日
- ◇人間開発学部…成田信子教授「言葉の学びによる『人間開発』についての一考察―主観性を導きにして―」東京大学教育学部教育学研究科、国学院大学図書館、4月1日～令和6年3月31日▷川田裕樹准教授「肥満に対する運動効果とサイトカインに関する基礎的研究」新潟医療福祉大学、4月1日～令和6年3月31日
- 【国外派遣研究員】
- ◇文学部…藤澤紫教授「浮世絵と東西文化交流史」ルーヴェン・カトリック大学（ベルギー）、10月1日～12月31日
- ◇法学部…佐古田真紀子教授「民事紛争処理制度に関する理論的研究」ハンブルク大学（ドイツ）、10月1日～令和6年9月30日
- ◇経済学部…木村秀史教授「国際金融のトリレンマ論における国際資本移動自由化の意義」University of Leeds（イギリス）、10月1日～令和6年9月30日

新潟コメ作りワークショップ 収穫米を伊勢神宮に初の奉納



奉納には杉子女王殿下(前列中央)と関係者らが参加

「新潟コメ作りワークショップ」本紙6・10月号既報の収穫米が11月26日、伊勢神宮(三重県)に奉納された。コメ作りは、杉子女王殿下が総裁を務められる一般社団法人心遊舎が平成28年から主催。本学学生は毎年参加しており、収穫米は新潟市内の神社や春日大社、出雲大社などに奉納されてきた。コメ作り7年目の今回、初めて伊勢神宮に奉納された。

奉納には、杉子女王殿下はじめ心遊舎の関係者や農家の方とともに、東海林孝一・教育開発推進機構学修支援センター長(経済学部准教授)と鈴木崇義・同機構准教授が参加した。一同は、宇治橋を渡り、内宮を御垣内参拝した後、別宮を遥拝。内宮神楽殿で、収穫米3俵が神前に供えられる中、厳粛に御神楽祈禱をあげた。

第1回から学生を見守った東海林センター長と鈴木准教授は奉納後、次のように語った。

東海林センター長

伊勢神宮への奉納は大変名誉なこと。この企画は「コメ作りの苦勞を体験し、食への感謝や農家の方の思い、連続と続く日本文化を学んでほしい」との思いから始めました。学生はコメ作りという共同作業を通じて、参加した方々と交流を深めています。コロナ禍前は農家の方による座学と懇親の時間もあり、体験の準備を重ねてくれた方々との交流は、人との繋がりの重要性を学ぶ機会にもなっていました。在学中に参加し、卒業後も携わる院友たちもいます。卒業後も農家の方との縁が続き、在学生との交流にも繋が



農家の方と交流した田植え(5月)

るなど、新たな広がりを見せています。学生が体験を通じ、一粒のコメの大切さを知り、「いただきます」という感謝の言葉の意味を理解してくれたら嬉しく思います。水田はコメだけではなく、学生をも育ててくれたと実感しています。

鈴木准教授

学生たちは田植え、稲刈りといった「わかりやすい」ものだけではなく、忘れられがちだが、重要な草取りにも参加していました。その際には農家の方のご自宅に滞在し、学生自身が積極的に交流を深めていました。コロナ禍で2年ぶりの訪問でしたが、現地ではまるで自分の孫や親戚の子のように学生を迎えてくれました。歴代の学生が一生懸命に取り組んできたからこそだと思います。今回、参加者をコロナ禍前の約30人から10人ほどに制限しましたが、農家の方からは「一人一人にじっくり教えられる」との声がありました。学生が手ほどきをうけ、交流しつつコメ作りに取り組む。コロナ禍だからこそ、貴重な体験になったと感じています。

第3回「観光まちづくりフォーラム」地域の未来へ向けゲストらが語る

国学院大学観光まちづくり学部が11月15日、持続可能な地域の実現と観光との関わりを探る第3回「観光まちづくりフォーラム」を開催した。渋谷キャンパスとオンライン配信のハイブリッド方式で行われ、観光に携わる関係者をはじめ約360人が参加した。



同学部の意義を語った西村学部長

フォーラムは第1部が同学部の概要説明と基調講演・対談、第2部が観光を軸にまちづくりなどに取り組むゲストを招いてのパネルディスカッション。はじめに針本正行学長と来賓の水嶋智国土交通審議官がそれぞれあいさつし、ビデオメッセージを寄せた水嶋氏は「地域づくりに明確に焦点を当てた観光関連の学部は極めて希少。観光まちづくりへの取り組みが、学部開設という形で結実しうれしく思う」と述べ、同学部への期待感を示した。次いで西村幸夫学部長・教授が、地域の視点で観光

を考え、理論と実践の両面から学ぶ学部の理念やカリキュラムの特徴などを説明し、「地域の夢に活気を与える学部がスタートしたということ」と学部開設の意義を語った。写真右。

続いて社会学部で東京大学大学院の吉見俊哉教授が「まちづくり」と題して講演した。吉見教授は「たび」は観光にとどまらない広い概念で、「まち」は空間であると同時に人々の記憶、開かれたコミュニケーションでもあると

を語る。この2つの関係は「たびまち」と言い表すことができる。説明。電動車など低速移動をするスローモビリティへの認識の高まりを踏まえつつ、ゆっくり移動しまちに接することで、「地域の人々が日常を過ごすまにじっくりふれられ、来訪者は非日常を感じることができると語り、「文化遺産・たび・まち・移動」を組み合わせ、学問として探求することの重要性を説いた。また、これからのまちづくりにも言及し、都心北東部にある上野や本郷、神保町といった徒歩圏内に文化資源が集中する地区を見直す必要性を提唱し、古き良きまちをゆつくり楽しむ都市づくりを提唱した。さらに、今後はスピード・効率重視から、生活が楽しく災害にシナヤカで、環境配慮のサステナビリティに力点を置いて都市づくりを進めることが重要とも力説した。



パネルディスカッションでは地域での取り組み事例を紹介

第2部のパネルディスカッションでは、「観光まちづくりのリアル、そして未来」をテーマに掲げた。三重県伊勢市で観光・地域振興に携わったデザイナーで design office k代表、同学部非常勤講師も務める上綱久美子氏、熊野古道を持続可能な観光地とすべく活動を続けている和歌山県田辺市の一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー代表理事の多田稔子氏、遠野物語で知られる岩手県遠野市で文化財の認定制度に取り組む同市文化課・市史編さん室次長(学芸員)の前川さおり氏の3氏が登壇。それぞれの取り組みを報告するとともに、観光資源を生かしたまちづくりの在り方などを語り合った。同席。西村学部長をモデレーターに来年4月に同学部教授に就任する吉見教授も議論に加わり、最後に吉見教授が「歴史的な文化資源は古いからこそ新しく、そこに未来への可能性がある」と締めくくった。

令和5年度 学年暦が決定

令和5年度の学部・大学院の学年暦が決定した。詳細は別表のとおり（入学試験関連行事を除く）。

| 学部学年暦 | |
|---------------------------|----------------------|
| 4月1日(土)～8日(土) | オリエンテーション、履修ガイダンス等 |
| 4月2日(日) | 入学式 |
| 4月10日(月) | 前期授業開始 |
| 5月1日(月) | 神殿鎮座記念祭〈休講〉 |
| 5月2日(火) | 校内整備〈休講〉 |
| 7月24日(月) | 前期授業終了（保育士課程以外の科目） |
| 7月25日(火)～31日(月) | 前期試験 ※保育士課程の科目は授業を実施 |
| 8月3日(木)・4日(金)・7日(月) | 追試験 ※7日は予備日 |
| 8月8日(火)～9月23日(土・祝) | 夏季休暇 |
| 9月5日(火)～8日(金) | サマーセッション① |
| 9月12日(火)～15日(金) | サマーセッション② |
| 9月25日(月) | 後期授業開始 |
| 11月1日(水) | 国学院大学創立記念祭〈休講〉 |
| 11月4日(土) | 国学院大学創立記念日〈休講〉 |
| 11月6日(月)・7日(火) | 校内整備〈休講〉 |
| 12月25日(月) | 年内授業終了 |
| 12月26日(火) ～令和6年1月5日(金) | 冬季休暇 |
| 1月6日(土) | 授業再開 |
| 1月13日(土) | 大学入学共通テスト〈休講〉 |
| 1月22日(月) | 後期授業終了 |
| 1月23日(火)～29日(月) | 学年試験 ※保育士課程の科目は授業を実施 |
| 2月6日(火)～8日(木) | 追試験 ※8日は予備日 |
| 3月20日(水・祝) | 卒業式 |
| 3月21日(木)～25日(月) | スプリングセッション |

| 大学院学年暦 | |
|---------------------------|--------------------|
| 4月1日(土) | 入学式 |
| 4月1日(土)～8日(土) | オリエンテーション、履修ガイダンス等 |
| 4月10日(月) | 前期授業開始 |
| 5月1日(月) | 神殿鎮座記念祭〈休講〉 |
| 5月2日(火) | 校内整備〈休講〉 |
| 7月24日(月) | 前期授業終了 |
| 7月25日(火)～31日(月) | 集中講義 |
| 8月3日(木)～5日(土) | 追試験 |
| 8月1日(火)～9月23日(土・祝) | 夏季休暇 |
| 9月25日(月) | 後期授業開始 |
| 11月1日(水) | 国学院大学創立記念祭〈休講〉 |
| 11月4日(土) | 国学院大学創立記念日〈休講〉 |
| 11月6日(月)・7日(火) | 校内整備〈休講〉 |
| 12月25日(月) | 年内授業終了 |
| 12月26日(火) ～令和6年1月5日(金) | 冬季休暇 |
| 1月6日(土) | 授業再開 |
| 1月13日(土) | 大学入学共通テスト〈休講〉 |
| 1月22日(月) | 後期授業終了 |
| 1月23日(火)～29日(月) | 集中講義 |
| 2月15日(木) | 【文学研究科】最終試験 |
| 2月21日(水) | 【法学・経済学研究科】最終試験 |
| 3月19日(火) | 修了式 |

渋谷の街と文化を語る SHIBUYA CULTURE CONFERENCE



トークを繰り広げた武藤さん・千原さん・カジさん(左から)

1990年代の一大ブーム「渋谷系音楽」をテーマに、渋谷の歴史や音楽文化が醸成された要因を探り、渋谷の新たな可能性に迫るイベント「みんながシブカン!『SHIBUYA CULTURE CONFERENCE』」が、渋谷キャンパス130周年記念5号館アリーナで開催され、約60人が参加した。

当日は3部構成で行われ、司会にアーティストの武藤千春さんを招きゲストらとトークが繰り広げられた。

■渋谷はカウンターカルチャーの集結地

第1部では著名な音楽プロデューサーの牧村憲一さんをゲスト

に招いた。渋谷で生まれ育った牧村さんは幼少期を振り返りつつ街の移り変わりを解説。昭和39（1964）年の東京五輪の頃に若者が集った新宿で生まれた文化が渋谷に流れてきたと説明した。また「関東大震災後に銀座の老舗を渋谷に呼び込む動きもあり、昔からカウンターカルチャーが集結する街だった」と歴史的な経緯にも触れ、



文化の発信地・渋谷の歴史的背景を語った牧村さん

「背景を知るとより面白い」と語った。

■カルチャーの集合体「渋谷系」

第2部は牧村さんに加え、90年代の渋谷系音楽を牽引したアーティストのカジヒデキさんを迎え、渋谷系音楽とは何だったのかを語った。カジさんは当時を振り返り「『渋谷系』とは音楽だけではなく、ファッションやポップアートなどのカルチャーの集合体として形成され、その一つとして『渋谷系音楽』が発展した」と解説。「渋谷は情報をキャッチする場所だった」と若者にとって憧れの街であったことを振り返った。牧村さんも音楽の歴史は繰り返されていると語り、両者は「今の若者にも渋谷系音楽を新鮮に聞いてもらいたい」と期待を寄せた。

■文化を産む自由な街に

第3部はカジさんとアートディレクターの千原徹也さんが、今後渋谷で生まれる音楽やカルチャーについて語り合った。千原さんは渋谷という街と文化が繋がって渋谷系音楽が生まれたように「人が集ってカルチャーが形成される」としながらも、「現代ではSNSで情報をキャッチすることが多く、場所を起点とした文化形成が起きづらいのでは」と社会の変化を分析した。最後に両者は「これからは渋谷は『何が起ころのだろう』と期待できる自由な街であってほしい」と今後の渋谷の文化形成に期待を込め、イベントを締めくくった。



寺崎さんが手がけた絵本『蒼い夜の狼たち』

「七ツ石神社再建をモチーフとした絵本を出版した」

絵本『蒼い夜の狼たち』は、役場観光課が雲取山をPRするために「絵本をつくれないか」と発案したことがきっかけ。丹波山村のオオカミを七ツ石神社の再建のドラマとともに広げていきたいと考えていたので、絵本の話は渡りに船だった。再建の始まりからグッズ企画を共にし、一番流れを理解してくれている画家の玉川麻衣さんに挿絵をお願いした。七ツ石神社が廃れてしまったところから再建までの物語をモチーフにファンタジーを描いた。主人公は七ツ石神社の2匹のオオカミで、崩れてし

「オオカミの伝承をモチーフにしたブランド『Wolfship Design(ウルフシップ・デザイン)』を立ち上げた」

神社の再建に合わせてオオカミを観光のシンボルにする取り組みが進んだが、それぞれに作成したグッズが流通し始め、軸が無いまま展開していく不安を感じた。せっかく多くの人が関わってくれた再建の想いを形にするため、オオカミを文化の象徴として、物語と一緒に語り継いでいくためには、自分の手でブランドデザインすることが大事だと考えた。ブランド名の「ウルフシップ・デザイン」は、オオカミを表す言葉に、スポーツマンシップなどのように「あるべき理想の姿」を表す接尾語を合わせた造語だ。ロゴマークは七ツ石神社の狛犬像をデザイン化した。

人々の想いとオオカミ伝承を語り継ぐ

「丹波山村では最近オオカミがアツイ」とイメージしてくれる人が増えてきたが、せっかくな村に来てもらっても、オオカミのことを知ることができない場所がない。資料館をこれまで以上に活用し、展示も見直ししていく必要がある。まず、狛犬のレプリカと再建の様子を説明したパネルを展示した。今後は、オオカミや七ツ石神社の物語に興味を持って足を運んでくれる人たちが集う場所づくりを、村内の学校や村外の大学などとも連携して作りたい。資料館には使われていない部屋もあるので、積極的にイベントも企画するほか、来館者がウルフシップ・デザインの商品を買えるように、ミュージアムショップの機能も持たせたい。七ツ石神社に登れない参拝者のために、通拝所として里宮を設けることも考えている。まずは観光として丹波山村を知ってもらい、オオカミに関する文化も体感してもらえたら嬉しい。

「丹波山村郷土民俗資料館を拠点に活動している」

「丹波山村では最近オオカミがアツイ」とイメージしてくれる人が増えてきたが、せっかくな村に来てもらっても、オオカミのことを知ることができない場所がない。資料館をこれまで以上に活用し、展示も見直ししていく必要がある。まず、狛犬のレプリカと再建の様子を説明したパネルを展示した。今後は、オオカミや七ツ石神社の物語に興味を持って足を運んでくれる人たちが集う場所づくりを、村内の学校や村外の大学などとも連携して作りたい。資料館には使われていない部屋もあるので、積極的にイベントも企画するほか、来館者がウルフシップ・デザインの商品を買えるように、ミュージアムショップの機能も持たせたい。七ツ石神社に登れない参拝者のために、通拝所として里宮を設けることも考えている。まずは観光として丹波山村を知ってもらい、オオカミに関する文化も体感してもらえたら嬉しい。



再建された七ツ石神社 (寺崎さん提供)



山梨県丹波山村の文化財担当職員になり、七ツ石神社の再建やまちおこしに取り組む寺崎美紅さん(平28卒・124期日文)。3歳のころからオオカミのことが好きで、神奈川県立生命の星・地球博物館(小田原市)を家族で訪れた時、「オオカミの展示の前から離れなかった」と後で聞かされた。オオカミ伝承の継承と文化財保護をライフワークにする寺崎さんに、活動に込めた思いを聞いた。

文化継承を諦めない 気持ちを繋ぐ

「七ツ石神社の再建に取り組んだ平成25(2013)年の夏、大学のフィールドワークで雲取山に登った時、道中の七ツ石神社を見つけた。戦後、少しずつ賑わいを失っていた神社は、御神体が下ろされてから、傾いたまま長らく放置されていた。オオカミであると言われていた狛犬は、今にも壊れそうだった。その後、定期的に神社を訪れ、個人的に調査を続けてきた。丹波山村に移住になり、これも何かの縁だと思つて神社の修復を決意した。まずは、資金を工面しなければならず、村の文化財へ指定するために必要な手続きを調べた。丹波山村の文化財保護審議会を開こうとしたら、審議委員会の数名がしばらく空席になっていた。その後、審議会で、七ツ石神社の文化財としての価値を説明し、文化財指定が決まり、再建が動き出した。ただ、標高約1757メートルの七ツ石山の山頂付近に位置する神社に行くには、3時間の登山が必要で、誰に依頼し、どうやって修復作業をするのが問題だった。

「修復作業の困難をどう乗り越えたのか」

誰に頼めばいいのか、さまざまな人に聞いて回ると、母校の国学院大学に聞いてみた。どうやらアドバイスをもらった。院友会山梨支部に相談すると、地元宮大工を紹介された。「面白いと思えばやってくれる人だから」と言われ、何だったか先にも懸念説明すると、オオカミ信仰にも興味を持っていただき快く承諾してくれた。林業用トラックで定員5人までの足を確保して地道に運び、解体された古い神社はヘリコプ

諦めない気持ちが文化財との出会いを生む

「文化財を伝承するために、大切な行動は」

今後は、文化財や文化に関心のある人たちの繋がりを広げていくことを考えている。七ツ石神社の再建がきっかけになって、文化財を後世に繋いでいくことを諦めない気持ちを持つ人が、一人でも増えて欲しい。文化財というモノがなくならない。文化財とつながることがあっても、人々の中で語り継がれていくことも意義があると信じている。就活時「伝承は仕事にできない」と言われたことが悔しかった。それでも、「好きでやること」と、「やらざるにはいられない」という気持ちで、諦められず、此処へ辿りついた。活躍の舞台が身近にはなくても、私にとっての丹波山村のように思わぬところから現れることもある。文化財に興味がある人は、同じ気持ちを持つ人と繋がりを広げ、フィールドでの学びを続けていけば、追わずにいらぬ道で先で出会いを待っている文化財がきっとある。

周囲を巻き込み神社を再建

「七ツ石神社の再建で学んだ教訓は」

文化財保護の取り組みは一人ではできないので、多くの人を巻き込む大切さを学んだ。当時は村役場の人たちがすべり、七ツ石神社のことをほとんど知らなかった。まずは毎日、七ツ石神社に関する資料を自分で作って、役場のプリンターで印刷することを続けた。「これ何?」と言われるたびに、神社の現状を説明した。地道にやっていたら、「寺崎が七ツ石神社のことをやっているらしい」という話が広まっていった。さらに、「聞いたことあるけど、どういうところかわからない」という村人の関心を引き付け、村外の民俗学ファンを巻き込むことを狙って、オオカミの絵をあしらった手ぬぐいなどのグッズを作った。

「七ツ石神社の再建で学んだ教訓は」

文化財保護の取り組みは一人ではできないので、多くの人を巻き込む大切さを学んだ。当時は村役場の人たちがすべり、七ツ石神社のことをほとんど知らなかった。まずは毎日、七ツ石神社に関する資料を自分で作って、役場のプリンターで印刷することを続けた。「これ何?」と言われるたびに、神社の現状を説明した。地道にやっていたら、「寺崎が七ツ石神社のことをやっているらしい」という話が広まっていった。さらに、「聞いたことあるけど、どういうところかわからない」という村人の関心を引き付け、村外の民俗学ファンを巻き込むことを狙って、オオカミの絵をあしらった手ぬぐいなどのグッズを作った。



倒壊しかけた七ツ石神社 (寺崎さん提供)



(修復された)オオカミの狛犬 (レプリカ)

文化の保存や研究に取り組む教員や院友の記事は国学院大学メディアでも掲載しています

「人類史全般への興味をもった幼少期を経て、いま考古学にとりくむ理由とは」
研究開発推進機構准教授 深澤太郎



「学芸員は心を救うエッセンスルワーカ―〜奈良から世界へ。文化の未来を問う〜」
奈良国立博物館 井上洋一館長



第26回 全国高校生創作コンテスト

文部科学大臣賞に横浜雙葉高(神奈川)



Table listing award winners by category: 文部科学大臣賞 (横浜雙葉高), 特別学校賞 (西日本短期大学附属高, 津山工業高等専門学校), 短編小説の部, 現代詩の部, 短歌の部, 俳句の部.

高校生コンテスト入賞作決まる

全国から応募総数1万5663点
国学院大学とスクールパートナーズ(高校生新聞社)による第26回全国高校生創作コンテスト(協賛:国学院大学若木育成会・国学院大学院友会・国学院大学北海道短期大学部、後援:文部科学省・全国高等学校長協会・全国高等学校国語教育研究会・日本進路指導協会)と、第18回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト(協賛:国学院大学若木育成会・国学院大学院友会・国学院大学北海道短期大学部、後援:文部科学省・全国高等学校長協会・日本進路指導協会)の入賞作が決定し、12月4日に渋谷キャンパスで表彰式が行われた。応募作品数は両コンテスト合わせて1万5663点で、全国の高校生から力作が集まった。

第18回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト

学校活動部門・最優秀に大垣養老高(岐阜)



Table listing award winners by category: 折口信夫賞 (該当なし), 地域文化研究部門 (団体, 個人), 地域民話研究部門 (団体, 個人), 学校活動部門 (最優秀賞).

優秀賞の受賞者が研究内容を披露し、佳作、入選は次の通り(敬称略)。
「地域の伝承文化に学ぶ」コンテストは、各地に伝わる昔話や伝説、郷土料理や方言など身近な「地域社会」に目を向け、文化を掘り起こして向き合うことによって、現在の私たちにできることを考えてもらおうと開催。本学の持つ伝承文化に関する資産に触れることで研究を深めてもらうことも狙いで、18回目を迎えた今回は全国から2311点の応募があった。内訳は、地域文化研究部門の団体28点・個人170点▽地域民話研究部門の団体7点・個人22点▽学校活動4点1だった。
高校生たちがそれぞれの疑問や視線を生かし、地域に目を向け探究や実践に取り組んだ力作の中から、最優秀賞、優秀賞が別表のように決まった。
表彰式は入賞者と関係者、審査員らが出席した。石川則夫副学長の挨拶(代読)、森伸一若木育成会会長(代読)と坂本真佐人院友会常務理事の祝辞が伝えられた後、各部門最優秀賞、優秀賞もそれぞれ別表のよう

最優秀賞受賞者 喜びの声
短編小説の部 西尾実優さん(北海道・札幌啓成高校)
現代詩の部 泉まいごさん(神奈川県・湘南高校)
短歌の部 早川彰太郎さん(福岡・西日本短期大学附属高校)
俳句の部 宇都宮駿介さん(愛媛・松山東高校)
地域文化研究部門(団体) 三重・英心高校探究ゼミ(代表:中川脩人さん)
地域文化研究部門(個人) 鈴木涼之介さん(東京・早稲田大学高等学院)
地域民話研究部門(団体) 松山北高校郷土研究部(代表:峰岡菜菜さん)
地域民話研究部門(個人) 登り美美さん(宮城・仙台育英学園高)
学校活動部門 大垣養老高校美濃柴犬研究班(代表:伊藤真鈴さん)

「戒能李咲(福島・安積黎明高2年)▽和田七望(東京・精華学園高探究アカデミー東京校2年)▽福山航生(埼玉・慶応義塾志木高3年)▽菅原響(福島・第一学院高郡山キャンパス2年)」
【入選】
佐々木藍里(秋田・秋田高2年)▽新野みちる(埼玉・深谷商業高1年)▽松川洵子(山口・柳井学園高2年)▽遠藤千浩(福岡・西日本短期大学附属高3年)▽金壮道(東京・東京朝鮮中高級学校1年)▽大谷咲枝(千葉・成田国際高3年)▽村松中等教育学校1年)▽松本悠佑(兵庫・雲雀学園高2年)▽松枝栄樹(山形・山形南高3年)▽小山涼(埼玉・浦和第一女子高2年)
【審査員】敬称略)
中村航(作家)▽井上孝雄(東京都立高教諭)▽田中章義(歌人)▽水無田気流(詩人・本学経済学部教授)▽堀本裕樹(俳人)▽村田勝利(高校生新聞社代表取締役社長)

剣道部 130周年記念祝賀会

国学院大学剣道部が11月5日、渋谷キャンパスで創部130周年記念祝賀会を開催した。当日は、佐柳正三理事長、針本正行学長はじめ来賓と同部卒業生、在学生部員らが参加。

はじめに植原吉朗部長（人間開発学部教授）が「全国の諸先輩方の支援のお陰で歴史を重ねている。学生剣道会随一の伝統と歴史を繋ぎ、150周年に向け発展したい」とあいさつ。続いて、佐柳理事長が「明治25年からの歴史を重ねられたことをお慶び申し上げます。今後、厳しい稽古に耐え、飛躍してほしい」、



祝賀会で展示された剣道部史

針本学長が「部の出身者である剣友の絆を固くし、発展を祈念する」とそれぞれあいさつした。

その後は、同部関係者らが在学中の思い出話を花を咲かせるなど、懇親を深めた。

弓道部 100周年記念行事を開催

令和4年12月10日、渋谷キャンパスで国学院大学弓道部の創部100周年記念奉告祭と関係物故者慰霊祭が執り行われた。

同部の創部は大正9（1920）年。本来であれば令和2年に実施を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で延期を重ねざるを得なかった。

この日参列したのは、武田秀章部長（神道文化学部教授）をはじめOB組織の弓友会会員や在学生ら約70人。午後1時から神殿での100周年記念奉告祭に続き、同2時からは弓道場に場所を移し、関係物故者慰霊祭が執り行われた＝写真。



弓道場での慰霊祭

主将の椎名遥紀さん（法3）は、「改めて弓道部の歴史と伝統を感じた。100年以上続く弓道部の主将として、先輩方の成績に負けずに、さらに強い国学院を目指したい」と今後の活躍を誓っていた。

インフォダイジェスト

内容 日にち 時間 場所 対象 定員 料金 申し込み 問い合わせ

大学からのお知らせ

年末年始の事務休止

12月25日(日)から令和5年1月6日(金)まで、渋谷・たまプラーザキャンパスの全事務室は閉室となります。同期間中は、証明書自動発行機の利用もできません。授業開始は1月7日(土)です。

大学入試に伴う入校制限

令和5年度大学入学共通テストおよび本学一般選抜入学試験実施のため、会場となるキャンパスへの入校を別表の通りに制限します。なお、該当期間は課外活動を行うことができません。

令和5年度大学院春季入学試験

国学院大学大学院では、別表の日程で令和5年度春季入学試験を実施します。

大学院事務課 ☎03・5466・0142

キャリアサポート

※詳細確認・申し込みはK-SMAPY II から行ってください

第3回求人フェア

新卒応援ハローワークや専門の人材紹介企業による対面の求人紹介イベントです。みなさんの就職活動状況に応じた情報提供と個人面談を実施します。

日・時 1月23日(月)13時～16時10分

対 4年生

新型コロナ関連のお知らせ

陽性/濃厚接触の場合は報告を

新型コロナウイルス感染症に陽性/濃厚接触となった場合は以下の報告フォームに入力してください。必要に応じて保健室から電話で詳細を確認します。

[本学HP]▷[在学生・保護者]▷[学生生活支援]▷[保健室]▷[登校停止感染症の手続き]▷[新型コロナウイルス感染・濃厚接触者等報告フォーム]

「3密」を避けよう



咳エチケット



◆大学入学共通テスト

Table with columns: 渋谷キャンパス, 日, 時, 立入制限区域など. Details exam dates (1/13, 1/14-15) and times for the University Entrance Common Test.

◆本学一般選抜入学試験

Table with columns: 渋谷キャンパス, 日, 時, 立入制限区域など. Details exam dates (2/1-2, 3/1-2) and times for the University's own general selection entrance exam.

たまプラーザキャンパス

Table with columns: たまプラーザキャンパス, 日, 時, 立入制限区域など. Details exam dates (2/1-2, 3/1-2) and times for the Tamaplasza Campus entrance exam.

大学院 令和5年度春季入学試験日程

Large table detailing the Graduate School Spring Entrance Exam schedule, including research fields (神道学, 文学, 法学, 経済学), exam types (一般, 外国人, etc.), and exam dates.

陸上競技部

箱根駅伝 エントリー選手紹介

箱根駅伝に出場する全21チームのエントリー選手16人が12月10日、関東学生陸上競技連盟から発表された。国学院大学陸上競技部のエントリー選手を大会への意気込みとともに紹介する = 1面に関連記事。

エントリー選手一覧 (敬称略)



川崎 康生 (経営4)
箱根駅伝は目標としてきた大会であり、大学4年間の集大成。長い距離への対応力もついてきた。今までの努力を発揮し、悔いなく実力を出し切りたい。



坂本 健悟 (経4)
箱根駅伝は小さいころからの夢の舞台。全日本は区間6位だったが、最終学年の箱根では復路での区間賞を目指す。チームの総合優勝に貢献したい。



島崎 慎愛 (経営4)
全日本では1区で出遅れ、チームに助けられた。箱根は一番輝くことが出来る大舞台。持ち味の「諦めない気持ち」で目標の総合優勝に貢献したい。



藤本 竜 (法4)
この箱根が陸上人生の総決算。出雲、全日本と区間4位でチームに貢献できたと思うが、箱根では粘りの走りを見せ、区間賞と総合優勝を目指したい。



中西 大翔 (健体4)
出雲、全日本の2位を悔しいと思うチームになり、箱根は総合優勝に挑む。個人でも区間新記録での区間賞を獲り、支えてくれた人たちに良い走りをする方々へ恩返しをしたい。



伊地知 賢造 (健体3)
出雲、全日本と2位だったが、箱根は譲れない大会。向かい風や上り坂への強さを生かし、冷静な走りでの区間賞を獲り、大学史上初の総合優勝に貢献する。



瀬尾 秀介 (経営3)
1年間苦しい時もあったが、走り続けてきた。成長できたと実感している。チームの一員として目標だった舞台に挑み、優勝に貢献できる走りをしたい。



木村 文哉 (経営2)
怪我也せず、継続して練習を積んでこられた。陸上を始めてからずっと憧れていた舞台が箱根駅伝。自分の走りでチームに貢献できるよう頑張りたい。



佐藤 快成 (健体2)
持ち前のタフで粘り強い走り任された区間での区間賞と優勝目指して頑張りたい。支えてくれた人たちに良い走りをする事で恩返しをしたい。



鶴 元太 (史2)
長い距離への適性を持ち味。安定して結果を出す力も成長してきた。最大の目標である箱根で区間上位、総合優勝に貢献する走りをしたい。



平林 清澄 (経営2)
出雲、全日本と他大エースとの差を痛感した。1年の集大成である箱根では、冷静な判断とペースを維持できる強みを生かし、精一杯走り優勝に貢献する。



山本 歩夢 (健体2)
出雲、全日本は悔しい結果だった。この1年で足が強靱になり練習を続けてきた。集大成の箱根で区間賞を獲り、チームを勢いづける走りをしたい。



青木 瑠都 (健体1)
1年間、スタミナ強化に取り組んできた。ラストスパートで見せ場を作り区間賞を獲りたい。お世話になった人たちに感謝を伝える走りをしたい。



上原 琉翔 (健体1)
箱根を目指して長い距離に対応する力を鍛えてきた。攻めの走りでの存在感を出して、優勝に貢献したい。



嘉数 純平 (健体1)
箱根は各大学の意地と意地のぶつかり合い。勝負強さを生かし、区間賞で優勝に貢献する。



高山 豪起 (法1)
箱根は1人では勝てないチーム戦。高校時代より長い距離を走れるようになったので、初の三大駅伝では思いっきり走り、区間賞を狙いたい。

沿道での観戦・応援に関する注意事項

箱根駅伝の観戦・応援にあたっては、大会主催者が要望する次の「お願い」をご確認の上、遵守ください。最新の内容は主催者HPでご確認ください = 二次元コード。



沿道での観戦・応援に関するお願い (主催者ホームページから)

- 沿道で観戦、応援をする際はマスクを着用し、周囲との距離を確保してください。また、声を出しての応援は控えてください。
- 本連盟が認めた出場校公認応援団の活動以外での大学名の掲出はご遠慮ください。のぼり、横断幕、小旗、タオルの掲出、法被など統一した衣類などを対象とします。
- 地域住民、公共交通機関、商業施設等に対する安全と環境を阻害する行為・迷惑行為が見受けられた場合には、当該チームに相応の罰則を与える場合がございます。

ソフトテニス部

全国大会で1・2年生が健闘

第77回天皇賜杯・皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権大会が10月21~23日にかけて香川県総合運動公園テニス場で開催された。国学院大学ソフトテニス部からは男女とも3ペアが出場。同競技の国内最高峰と言われる舞台に挑み、女子で庄司琴里選手(初教2)・濱島怜奈選手(初教1)ペアがベスト16に進出した。ベスト8には惜しくも届かなかったものの接戦を繰り広げ、今後に繋がる戦いぶりを見せた。

11月23日には、全日本学生選抜インドア選手

権大会が小田原アリーナで開催され、下田好輝選手(史4)・黒須証暉選手(神文2)ペアが準優勝を収めた。この大会は今年度の学生主要大会で上位成績を収めた12ペアが選抜され対戦。同ペアは惜しくも日本一を逃したものの、強豪相手に積極的なプレーを繰り広げた。他にも11月25~28日に開催されたジュニアジャパンカップで女子の濱島選手がシングルスで優勝し、20才以下の日本一に輝くなど各大会で活躍を見せた。



学生インドア準優勝の下田選手(左)・黒須選手(同部提供)



1部昇格を決め、喜ぶ部員たち(同部提供)

準硬式野球部

8年ぶり1部昇格

東都大学準硬式野球の2部秋季リーグ戦が9月1日から10月31日に行われ、国学院大学準硬式野球部が優勝を収めた。2部リーグは6大学が所属し、同部は9勝1敗・勝点18と2位以下を大きく引き離れた。最優秀選手賞に佐々木崇選手(中文3)、最優秀投手賞に天池空選手(史2)、首位打者賞に森川稔弘選手(法3)が選出

され、同部は2部表彰選手を独占した。この結果、同部は11月12、13日にスリーボンズベースボールパーク上柚木(東京都八王子市)で行われた1部6位の国士舘大学との入替戦に臨み、1回戦は8-5、2回戦は9-6で勝利。平成27年春リーグ以来、8年ぶりの1部昇格を決めた。

K:DNA——創立140年目を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える



メダルとトロフィーを授与され、表彰式に臨む古江主将(左端)、山本選手(左から2人目)ら

硬式野球部

明治神宮大会準優勝 古江主将「後輩に思い託す」

明治天皇御生誕百七十年記念 第53回明治神宮野球大会が11月18日か



3試合に登板し好投の坂口投手

ら24日にかけて明治神宮球場で開催され、国学院大学硬式野球部は準優勝に輝いた。

この大会は、明治神宮の御鎮座50周年記念として創設され、6月の全日本大学野球選手権大会とともに大学野球日本一決定戦として知られる。各ブロックの予選を勝ち抜いた全11大学が参加し、熱戦を繰り広げた。

同部は19日の2回戦で東北三連盟代表の仙台大学と対戦した。一回表、1死三塁から柳館憲吾選手(法2)の二ゴロ間に吉川育真選手(経3)が生還し1点を先制する。二回裏に追い付かれるも六回表、宮田蒼太選手(健体

4)の適時二塁打などで3点を追加し4-1とリードを広げた。その後は投手陣が相手打線の追撃を断ち、6-2で勝利し準決勝進出を決めた。

22日の準決勝では、関西五連盟第一代表の大阪商業大学と対戦。四回表に相手守備の乱れをつき3点を先制。六回裏に2点を返されるも八回表、打線が奮起し山本大輔選手(健体4)、吉川選手、柳館選手の適時打などで3点を追加し6-2と突き放し勝利を収め、初の決勝進出を決めた。投げては田中千晴選手(神4)が5回2/3を2安打に、坂口翔颯選手(経営2)が3回1/3を1安打に抑える好投を見

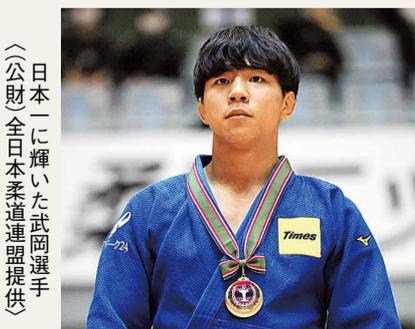
せた。

迎えた24日の決勝では、東京六大学野球連盟代表の明治大学(東京)と対戦。三回裏に1点を先制され0-1となると、そのまま決勝点となり惜しくも敗れた。両校は攻守とも好プレーを連発し、決勝にふさわしい息詰まる攻防戦にスタンドは熱狂した。試合後に指導者とナインらが一礼すると、応援に駆け付けた学生や父母、院友らは盛大な拍手を送り、同部の健闘をたたえた。試合後、古江空知主将(健体4)は「次の代には1試合に懸ける思いを継いで頑張ってもらいたい」と語り、後輩たちへ日本一の夢を託した。

柔道部

学生・院友が活躍 講道館杯で院友・武岡選手が日本一

階級別日本一を決める国内タイトルの一つ、令和4年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会が10月30日、千葉ポートアリーナ(千葉県千葉市)で



(公財)日本一に輝いた武岡選手 (全日本柔道連盟提供)

開催された。国学院大学柔道部からは6選手、院友も6選手が出場し、男子66kg級で羽田野啓太選手(健体2)が7位、武岡毅選手(令4卒・130期日文、パーク24)が優勝を収めた。

羽田野選手は一回戦シードとなり二回戦、三回戦と続けて突破。準々決勝で院友・相田勇司選手(令4卒・130期法、ALSOK)に敗れたものの、7位入賞となった。優勝した武岡選手は初制覇。準決勝では相田選手との院友同士の対決が繰り広げられた。そのほか、相田選手は3位、藤阪泰恒選手

(平31卒・127期健体、パーク24)が5位となり、入賞8人中4人を本学関係者が占めた。同階級は、日本が国際大会を席捲し、国内競争が最も激しい階級と言われている。本大会では、令和元年度を相田選手、2年度を藤阪選手が制しており、軽量級を得意とする同部の存在感が際立つ結果となった。

ほかにも66kg級に藤岡歩武選手(健体2)、新井雄士選手(令4卒・130期史、皇宮警察)、73kg級に後藤颯太選手(健体1)、島田隆志郎



66kg級7位の羽田野選手

選手(令2卒・128期健体、パーク24)、81kg級に岩下幹人選手(健体2)、90kg級に押領司龍星選手(経営4)、北野裕一選手(平25卒・121期経営、アドヴィックス)が出場した。

武岡選手は、12月3、4日に東京体育館で開催されたグランドスラム東京へ日本代表として出場し、5位となった。